

核のごみ問題の Ours 化 -その意義と方法-

“Becoming OURS” of nuclear waste disposal issue - its significance and method -

*石崎 悠也¹, 谷口 和成², 野ヶ山 康弘³, 澤田 哲生⁴

¹京都教育大学附属高等学校, ²京都教育大学, ³京都教育大学附属京都小中学校, ⁴東京工業大学

高レベル放射性廃棄物（いわゆる核のごみ）の処分問題を、「自分ごと」から「私たちごと化=Ours 化」することは、この問題を広く共有し、解決の糸口を見出す上で有効であると考えます。本発表では、そのための具体的な方法の一つとして、〈Ours（私たちごと）〉化の実践としての物語化の意義について論じます。

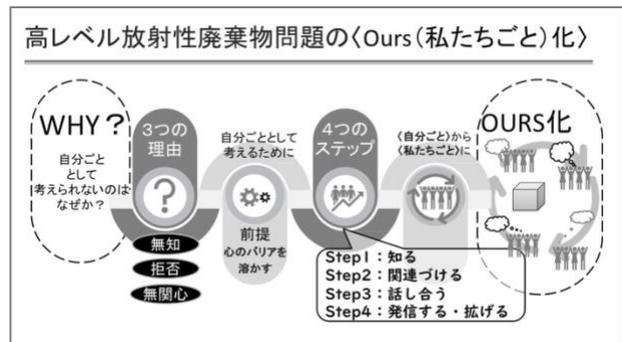
キーワード：核のごみ，自分ごと化，Ours 化，絵本，マンガ

1. 緒言 なぜ〈Ours（私たちごと）〉化なのか

NUMO（原子力発電環境整備機構）主催の「私たちの未来のための提言コンテスト」において、「高レベル放射性廃棄物問題の『Ours（私たちごと）』化計画」、「高レベル放射性廃棄物問題の『物語・絵本化』計画」を提案した。〈Ours（私たちごと）〉化とは、問題を共有し、〈自分ごと〉を超えて、未来に向けた「対話」の輪が広がっていくことを目指した取り組みである。

2. 仮説 〈自分ごと〉にできない3つの理由と〈自分ごと〉にするための4つのステップ

「中学生サミット」、「ふくしま学宿」、NUMO の座談会で様々な人と出会い、学び、対話する中で、高レベル放射性廃棄物問題は、人間と科学のあり方を考える上で重要なテーマであることに気づいた。そして、みんなでこの問題を〈自分ごと〉にできない理由と向き合い、納得して受け継いでいくための【仕組み】や【場】をつくっていくことが必要だと考えるに至った。そこで今回考えたのが右図の仮説である。



図：3つの理由と4つのステップ

3. 考察 〈Ours（私たちごと）〉化のための対話を促進する物語化

今回、〈Ours（私たちごと）〉化の実践として、「哲学的な対話」（戸板, 2019）からヒントを得て、物語の創作を試みた。この物語は〈未完成の物語〉だが、“NIMBY”の議論を超えて、より多くの人たちと対話する中で、〈物語〉と一緒にアップデートし、絵本やマンガにしていけることが、高レベル放射性廃棄物問題を広く共有し、解決の糸口を見出すことに役立つと考えた。

参考文献

- [1] 戸谷洋志「地層処分をめぐる住民との対話を促進させる手法の研究」、地層処分の社会的側面に関する研究成果報告, 2019年.
- [2] 中村征樹「「想定外」と向き合う-東日本大震災と科学技術-」、『サイエンスネット』, 数研出版, 第44号, 2012年, pp.14-15.

*Yuya Ishizaki¹, Kazunari Taniguchi², Yasuhiro Nogayama³, Tetsuo Sawada⁴

¹Kyokyo HS, ²Kyokyo Univ., ³Kyokyo JHS, ⁴Tokyo Tech